

●セミナー「東南アジアへの静脈産業移転を考える」のご案内

環境省は、我が国の廃棄物処理・リサイクルに関する循環産業が海外において事業展開することを支援し、世界規模で環境負荷の低減を実現するとともに、我が国経済の活性化につなげるため、平成23年度より「日系静脈産業メジャーの育成・海外展開促進事業」を開始し、循環産業の育成・海外展開に取り組んできています。このような背景から、海外展開を目指す製造業をはじめとして、国内で産業廃棄物処理業に携わる方や自治体関係者の方々の循環産業の海外展開・支援のあり方への関心が高まっています。

そこで、JWセンターは、循環産業の海外展開への関心を持たれている皆様に、東南アジアでの廃棄物の排出、処理、再生利用等の現状を紹介するとともに、今後の循環産業の海外展開を考えていただくためのセミナー「東南アジアへの静脈産業移転を考える」を企画しました。セミナーの詳細、参加申し込み方法は、JWセンターホームページ (<http://www.jwnet.or.jp/event/>) をご覧ください。

●開催日時：平成27年1月30日(金)
13時30分～15時15分

●開催場所：主婦会館プラザエフ(JR四ツ谷駅前)

●講演内容：1)「日系静脈産業メジャーの育成・海外展開への支援の枠組み」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室
課長補佐 山田 浩司 氏
2)「東南アジアにおける静脈産業の概況」
国立環境研究所 廃棄物適正処理処分研究室
室長 山田 正人 氏

●参加費(資料代)：1,000円

●定員：100名

●平成26年度更新講習会追加開催のお知らせ

「産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(更新：収集・運搬課程)」を以下のとおり追加開催いたします。

講習会	開催地	開催期日	開催会場	受付機関
更新講習会 (収集・運搬課程)	兵庫県	平成27年2月5日(木)	兵庫県中央労働センター	(一社)兵庫県産業廃棄物協会
	大阪府	平成27年3月10日(火)	大阪商工会議所	(公社)大阪府産業廃棄物協会
	神奈川県	平成27年3月11日(水)	ワークピア横浜	(公社)神奈川県産業廃棄物協会
	東京都	平成27年3月20日(金)	ベルサール西新宿	(一社)東京都産業廃棄物協会

●第2回 日本・韓国・台湾ネットワーク会議 参加報告

平成26年10月20日・21日の2日間、台湾・台北にて開催された第2回日本・韓国・台湾ネットワーク会議(三国会議)に参加しましたので、概要を報告します。三国会議は、電子マニフェストを導入している日本・韓国・台湾の関係機関が、電子マニフェスト制度や産業廃棄物管理に関する情報交換を目的として、JWセンターの提唱により始まりました。三国会議は、第1回が平成25年12月に東京で開催され、各国の機関が輪番で毎年主催することとしています。

【参加機関】

第1回三国会議に引き続き、日本からはJWセンター、韓国からは韓国環境公団(KECO)、開催国の台湾からは行政院環境保護署(EPA)の3機関が出席しました。

【1日目(10月20日)】

(1) モーニングセッション

モーニングセッションでは、台湾環境保護署Kuo-Yen Wei 大臣、JWセンター岡澤和好理事長、KECO Kang,Hee Tae 廃棄物管理グループ部長の挨拶の後に、廃棄物管理をメインテーマとして、各国から以下の内容についてプレゼンテーションが行われ、その後ディスカッションを行いました(表1)。

表1 モーニングセッションの内容

発表機関	テーマ
台湾(EPA)	台湾における廃棄物管理
日本(JWセンター)	日本における災害廃棄物管理支援システムの開発と利用実績
韓国(KECO)	韓国における産業廃棄物管理システム

<台湾>

台湾の産業廃棄物管理の法的根拠及びオンラインシステムの概要、不法投棄対策の強化を目的として開発されたリアルタイム追跡管理システムについての発表がありました。

<JWセンター>

平成23年3月の東日本大震災による被災状況の概要、がれき等処理の進捗状況、東日本大震災により生じた災害廃棄物処理を支援するために開発した「災害廃棄物管理支援システム」の概要と利用実績及び今後の課題について発表しました。

<韓国>

韓国の電子マニフェストシステムであるAllbaroシステムの特徴とその効果についての発表がありました。

(2) アフタヌーンセッション

アフタヌーンセッションでは、各国の廃棄物管理、最終処分の現状について、より専門的な内容の発表が行われました(表2)。アフタヌーンセッションの最後には、1日の発表を通じた活発な意見交換が行われ、台湾・韓国の貴重な情報を得ることができました。

表2 アフタヌーンセッションの内容

発表機関	テーマ
台湾(Chung-Tai Resource Technology Corp.)	廃蛍光灯の再生利用
台湾(EPA)	台湾における最終処分の現状
日本(JWセンター)	日本における最終処分場管理の現状
韓国(KECO)	韓国における廃棄物管理
台湾(国立台湾大学環境工学研究所)	台湾における持続可能な資源管理

【2日目(10月21日)】

2日目には、2施設の見学を行いました。1ヶ所目は、かつて台北市の最終処分場だった緑があふれる公園を訪問しました。公園は、土地の跡地活用として開放されており、太陽光・風力発電設備を持つ小さな無料宿泊施設も整備されており、見事に変化を遂げた様子でした。



2ヶ所目は、製品のボトル等にリサイクル技術を用いるなど、資源の再利用やリサイクル活動に先進的な取り組みを行っているヘアケア用品の製造企業を訪問しました。オフィスでは、太陽光発電や環境に配慮した技術を取り入れているため、エアコン使用も少ないとのことでした。

2ヶ所の施設訪問を通して、台湾での環境活動の一端に触れることができました。

【おわりに】

本ネットワーク会議は、第3回目として平成27年度に韓国での開催が決まっております。今後も、本会議を、日本・韓国・台湾の産業廃棄物管理に関する有効な情報交換および三国の電子マニフェスト運営機関の連携を深める場として、継続して開催していくこととしています。

「APLAS Ho Chi Minh 2014」参加報告
国際部・調査部

国際事業における産業廃棄物情報の発信と収集の一環として、平成26年10月23日（木）にベトナム・ホーチミン市で開催された「The 8th Asian-Pacific Landfill Symposium (APLAS Ho Chi Minh 2014)」に参加しましたので、概要を報告します。

APLASは、アジア太平洋地域の深刻な廃棄物問題に対処し、持続可能な開発の実現を目指して、廃棄物の埋立及び再資源化分野等の専門家が集い、それぞれの有する技術、理論または経験を共有し、地域全体の環境向上に資することを目的として、2年毎にアジアの都市で開催される国際シンポジウムです。日本の特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会（LSA）がシンポジウムの常設事務局となっています。

今回のシンポジウムには、開催国ベトナムの他、日本、

韓国、中国、インドネシア、ニュージーランド、ベルギーの7カ国から、約140人が参加しました。開会式では、主催者のLSA、ホーチミン工科大学からの挨拶（写真1）に続き、日本からは環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課山田課長補佐と、シンポジウムを後援している日本廃棄物団体連合会国際委員会の当センター岡澤理事長が祝辞を述べました。

基調講演では、インドネシアと香港の廃棄物管理の現状と課題に関する発表が行われました。インドネシ

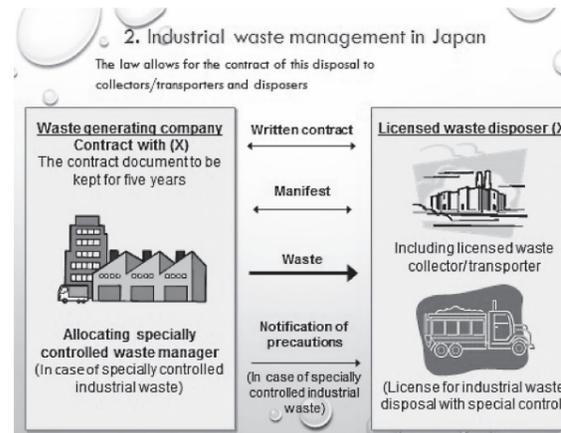


図1 JWセンター発表スライドの一部

アからは、廃棄物が野積みされている埋立処分場を、今後衛生的に閉鎖していくことが法で定められていることや、香港からは、リサイクルの推進や中間処理施設の整備により、埋立処分量が減少していることなどが報告されました（写真2）。

その後、各セッションに分かれ発表が行われました。JWセンターは「Efforts For Promotion Of Appropriate Industrial Waste Management In Japan（日本における産業廃棄物適正管理推進の取り組み）」と題する口頭発表を行いました。具体的には、日本の廃棄物処理法における廃棄物の分類、産業廃棄物の排出者処理責任、産業廃棄物の委託処理の流れ（図1）等、日本の産業廃棄物処理の概要を説明し、産業廃棄物適正処理を推進するためにJWセンターが実施している各種講習会・研修会事業、電子マニフェスト事業を紹介しました。電子マニフェストについての質問を受け、JWセンターが指定機関となり、日本全体で一つの電子マニフェストシステムを運用していると回答しました。その他、各国の大学、廃棄物関係団体の方々から、埋立処分場の維持管理、リサイクル、バイオマス活用等についての発表が行われ、活発な意見交換から貴重な知見が得られました。

また、学術的な発表だけではなく、現地の廃棄物処理実務担当者向けのビジネスセッションも行われ、日



写真3 企業のブース展示



写真4 企業の事業紹介

本からも海外事業を展開する企業が参加しました。企業のブース展示（写真3）や発表による事業紹介（写真4）は、今回のAPLASの特色として位置づけられており、日本企業の有する関連技術や経験をアピールすると共に、今後のベトナムにおける日本企業のビジネス展開も期待されるセッションでした。

JWセンターは、これからも、アジアをはじめとした世界各国の廃棄物管理の課題に関する情報を収集し、JWセンターが有する産業廃棄物適正管理に関する知識、ノウハウ等を広く発信してまいります。



写真1 開会式挨拶
(ホーチミン工科大学 Vu Dinh Thanh 学長)



写真2 基調講演(香港大学 Kaimin Shih 准教授)

「JWセンター特別懇話会」の開催報告 調査部

平成26年11月19日(水)に、JWセンター特別懇話会を、東京四ッ谷の主婦会館プラザエフにおいて開催しました。

例年、JWセンターでは、監事、評議員、理事等の関係者の方々を対象にして、産業廃棄物の最新の話題に関する講演を通じて、関係者間の情報交換を図ることを目的とした「JW懇話会」を開催しております。今年度は、講師として、環境省顧問の谷津龍太郎氏をお招きして、公開で実施しました(写真1、2)。

谷津顧問からは、「持続可能な社会をめざして」と題する90分のご講演をいただきました。ご講演内容は、「循環型社会に向けて～循環と低炭素の統合～」、「東日本大震災により生じた災害廃棄物の処理」、「廃棄物リサイクル・対策の概要」、「個別リサイクル法」、「国際的取組」、「除染、中間貯蔵施設の整備」および「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした環境配慮の推進」に係わるものであり、これまでの谷津顧問のご経験もふまえた廃棄物処理・リサイクルに関する国内外の幅広い話題をご紹介いただきました。

特別懇話会には、約90名の多くの方々にご出席いただきました。今後も、JWセンターは、産業廃棄物に関連した最新情報を皆様にご提供することに努めてまいります。



写真1 谷津 龍太郎氏



写真2 JWセンター特別懇話会の様子

第13回産業廃棄物と環境を考える全国大会 「環境再生そして循環型社会への挑戦」をテーマに

平成26年11月7日(金)に、岩手県のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングに於いて、(公社)全国産業廃棄物連合会、(公財)産業廃棄物処理事業振興財団並びに(公財)日本産業廃棄物処理振興センターの三団体主催による「産業廃棄物と環境を考える全国大会」を開催いたしました。

今年で本大会は第13回目を迎え、多くの廃棄物関係者等(636名)の参加がありました。

大会では、環境大臣表彰式典の後、京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長 酒井伸一氏に「廃棄物からみた社会システム～災害廃棄物を中心に～」をテーマに基調講演を行っていただき、続いて、行政担当者、事業者、学識経験者のパネリストにより「環境再生そして循環型社会への挑戦」をテーマに討論会が行われました。

なお、次回の全国大会は、平成27年11月6日に佐賀県で開催を予定しています。



写真1 京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長 酒井伸一氏による基調講演

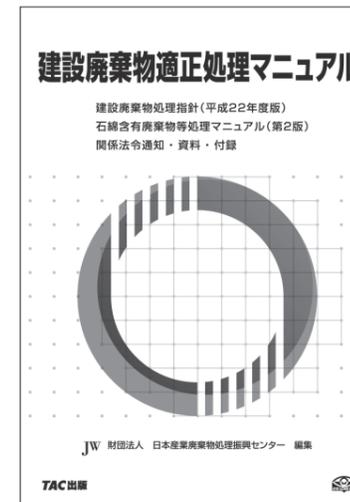


写真2 行政担当者、事業者、学識経験者等によるパネルディスカッション

刊行物のご案内

JWセンターでは産業廃棄物の適正処理の推進を図るため、産業廃棄物の排出量が多量な建設廃棄物と有害性が高く医療機関から排出される感染性廃棄物について、関係者に廃棄物の処理や運用について理解を深めていただくために「建設廃棄物適正処理マニュアル」や「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル平成24年5月改訂」を発行しています。

ご購入を希望される方は、JWセンターホームページ(<http://www.jwnet.or.jp/publish>)または書店よりお申し込みください。



建設廃棄物適正処理マニュアル



感染性廃棄物処理マニュアル

インターン生研修会の報告

白井グループ株式会社インターン生研修会を実施しました。

廃棄物処理業の白井グループ株式会社では、外国人インターン生の受け入れを行っており、現在は、パルーのリマ大学の学生が就業体験をしています。

平成26年12月1日(月)にJWセンター会議室に於いて、その学生に対して日本の廃棄物管理の概要やJWセンター事業として、教育研修事業、電子manifest制度、感染性廃棄物容器評価事業を説明しました。

